

松本市の本質的魅力を発信 「MATSUMOTO Experience」

国宝・松本城の城下町で、北アルプス登山の玄関口でもある松本市は、信州の中でも外国人の姿が多く見られる街だ。「サムライルート」と呼ばれる、訪日外国人に人気の観光ルート(松本～飛騨高山～北陸)の起点になっていることが、その理由の一つだろう。

とはいえ、地元の人々の間には「松本はただの通過点になっていないか」という心配がある。市の調査では、松本を訪れる外国人の半数以上が2泊以内と短い滞在。「通過型から滞在型の観光地に」との動きが、地元で高まっている。

その中で、地元有志が中心になって作り上げたのが、日本の文化や自然を体験できるさまざまなアクティビティだ。「着物・浴衣姿で街歩き」「侍や忍者の姿で剣術」「和太鼓の演奏」「ラフティングボートで川下り」「手打ちそば」…。それぞれに2時間前後の活動、費用は一人3000～5000円程度に設定している。

こうしたアクティビティの魅力は、いずれもこの地域ならではの自然や景観、文化を土台にしている点だ。着物姿での街歩きに松本城は欠かせない「インスタ映え」スポットだし、剣術を教えるのが地元のアマチュア劇団員というのは「演劇のまち」だからこそ。アルプスの雪解け水が流れる川を下れば日本の原風景といえる景色が広がり、そば処・信州の職人がおいしいそばの打ち方を教えてくれる。

日本文化の体験を楽しみながら、観光だけでは手が届かない、この地域の本質的な魅力に触れることができる、というわけだ。

「MATSUMOTO Experience」と題したこれらのアクティビティは、ウェブのほか、松本市街地の中心部にある「信毎メディアガーデン」1階の「まちなか情報局」窓口で詳しく案内している。窓口スタッフの千野サナエさん(魅力ある観光地づくり実行委員会)は「海外から来る方にとって松本が『忘れられない街』になるように、これからも皆さんのニーズを探りながら、体験のメニューを加えていきたい」と話している。

信濃毎日新聞社 広告局企画部次長 豊田 幸司

信毎メディアガーデン(松本市)の「まちなか情報局」で外国人向けの体験メニューを案内する千野さん。時には、江戸時代の「かわら版売り」のいでたちで窓口立つこともあるという

